

生涯学習大沼令和6年度第5回の教養講座を開催しました

2月21日(金)、「日立市市政出前講座」を開催し、19名の参加者と聴講しました。

防災無線でお馴染みの日立市天気相談所、気象予報士の池田恵介様に『日立の気象』と題し、気象観測と予報の現状や観測所の歴史と日立の気象に付いて紹介頂いた。

日立市天気相談所

日本で唯一地方自治体が運営している気象機関
気象庁以外で最も長い歴史を持つ天気予報を行える機関

1. 天気相談所の仕事

市内の各地点からの機械による観測と人による観測も行い、日立市に特化した天気予報を気象予報士の資格を持つ市職員が毎日防災無線等で発表する。

また、桜の開花状況の観測や、台風などの時に災害対策本部で予報や観測実況の提供をすることなど。

2. 天気相談所の歴史

1910年(明治43年)：日立鉱山から排出する煙害対策のため、日立鉱山が神峰山に気象観測所を設置。

1914年(大正3年)：煙害対策の大煙突完成。(映画化された『ある町の高い煙突』)

1952年(昭和27年)：観測所を日立市へ移管。

日立市天気相談所が誕生し市役所での観測が開始した。

3. 日立の気象

日立市は市内に有る多賀山地により海側と山側で気候が異なる、海側は夏涼しく冬温暖山側は夏暑く冬寒い気候とのこと。

また、他の地域(水戸等)に比べ海が近いため、一年を通し比較的温暖な気候とのこと。

※ 講演を聴き、日立市は県内でも温暖な気候でとてもみやすい地域であることを認識した事と思います。

生涯学習部 尾崎重美

